

---

# ロイエンタール家の夏休み

遠美 見

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ロイエンタール家の夏休み

### 【Nコード】

N4120N

### 【作者名】

遠美 見

### 【あらすじ】

夏休みでリゾートに出かけるロイ一家のお話です。

(前書き)

いつもの仲良しロイエンタール一家のお話です。

カイザー・ラインハルトの病が奇跡的に治り、ロイエンタールも無事に軍務に復帰して、元帥府は新しい国作りのために忙しく動いている。

しかし、戦時下ではなくなったのだから、夏の休暇ぐらいはきちんととるべきだろう・・・という皇妃の進言があり、軍人たちは上から下まで1週間程度の休みを交代でとる事になったのである。

ミッターマイヤーとしてはこの機会にロイエンタールの家族と旅行にでも行きたいな、と思っていたのだが、筆頭元帥二人の長期休暇が重なるはずもなく・・・。

ロイエンタールが一足先に休みをとることになった。

「休み中何してる？」とミッターマイヤーがロイエンタールに訊く。

「家で寝てる」

予想どおりの答えにミッターマイヤーは軽いため息をついた。

「家族で旅行に行くとか、そういう選択肢はないのか？ 卿には  
！  
！」

「なにが悲しくて、この混んでるシーズンの最中に、手間のかかる貴族令嬢とチョコチョコする子供をつれて遠出しなければならぬんだ！！ 近所買い物に行くのだって大変なのに」

そこまで一気にしゃべってロイエンタールははっと気づいた。

今の言葉で彼は、親友に買出しを手伝っている事を白状したも同然だったからである。

「とにかく！！ 断じて休み中は出かけないからな！！」

あわててそういって自分の執務室に入っていったロイエンタールに、ミッターマイヤーが爆笑したのは言うまでもない……。

仕事を片付けて家に帰ると、いつものようにフェリックスがパタパタと走ってきて迎えてくれる。

「ファータ、おー！！（ファーター、お帰りなさい）」

1歳3ヶ月の息子に満面の笑顔でそういわれると、やっぱりうれしい。抱き上げると高い声を上げて笑う。

子供のかん高い笑い声など大嫌いだったはずなのに、不思議なものだ。

夕食を食べて、くつろいでいると、エルフリーデが話しかけてくる。

「明日から夏休みよね？ どういう予定なの？」

「仕事も片付けてきたし、特に何もないが・・・旅行にでも行くか？」

え？とエルフリーデは目を丸くした。少し考えて・・・

「・・・行きたいけどやめておくわ・・・。。旅行ってしたことがないし、フェリをつれて行く自信、ない」

「は？ 旅行したことがない？お嬢のクセに？」

「だって領地星の別荘とか、親戚の星とか行くだけだったもの。テレビで見ると旅行って人がいっぱいいるんですよ？ あんなところに子連れで行ったら疲れて死んでしまいそうだわ。それに荷物も多くなるでしょうし・・・」

お嬢がお嬢だと思っていたが、そこまでだったとは・・・まあいい、これで家でのんびり過ごせる。

「そーか、そーか。じゃ、旅行はフェリックスがもっと大きくなってからにしような。残念だな」

ロイエンタールはエルフリーデの巻き毛をよしよしと撫でた。そんな、普段はぜったいやらないような行動をとったのがいけない！！

「・・・・・・・・今、喜んだわね？」

「いやっ！！ そんなことはないっ！！ すっごく残念だ」

ロイエンタールはあわてて否定するが、バレバレである。艦隊戦

で敵の裏をかくのは天才的にうまいのに、何でこう嘘が下手なのか・・・？ エルフリーデはふくれっつらになった。

「旅行行く！！ どっかつれてって」

きっぱり言うと、両親の様子をきよとんと見ていたフェリックスを抱っこして

「フェリ！！ お父さまが旅行につれてってくれるんだって。うれしいね～～！！」

と二人ではしゃいでいる。

ロイエンタールはまた、人の変なスイッチを押す自分のクセを呪うことになったのである。

「で、ドコに行くんだ？」

行き先なんて考えるのも面倒なので、嫁に決めさせることにする。エルフリーデはさして迷う事も泣くすぐに行き先を決めた。

というわけでやってきたのは、夏のリゾート地では一番有名な水の惑星である。天然の海に加えて、最近できたばかりのテーマパークが売りらしい。フェリックスがテレビコマーシャルで観て行きたがっていたとエルフリーデは言っているが、ほんとは自分が行きたかったに違いない！！

こんなところ、急にはホテルだって取れるまい（そしたら中止し

よう^^)とたかをくくっていたが、電話の向こうの横柄な態度はこちらの名前を言ったとたんに変わり、部屋も簡単に取れてしまった。権力というものは不必要な時ばかり役立つものだ……。

予想はしていたが、人、人……。。どっからわいたのかと思うほど人ばかり。

休みに来てるんだか、疲れに来てるんだか分からない……。

何よりさんと降り注ぐ太陽の光にきれいな海に白い砂浜……俺には不似合いなものばかりだ。ミッターマイヤーなら絵になるだろうが。

「待たせたわね」

水着に着替えたエルフリーデとフェリックスがやつと来た。フェリックスははじめて見る海にキヤーキヤーはしゃいでいる……よかった、こいつと一緒にいれば俺も何とかこの場になじめるような気がする。

それより……おい嫁!!

ちよつとヤバイだろその水着!! 1児の母のクセにビキニとか着てんじゃねえ!! しかも肩ヒモないしっ!!

エルフリーデの子供を生んだとは思えないスタイルのよさ、太陽の下で見るその肌の綺麗さ、長い金色の巻き毛に端正な顔立ち……  
……ビーチを歩く男たちがみんなちらちらと視線を向けている。

え〜〜〜い！！ 見るなみるなっ！！ これは俺の嫁だぞっ！！

ロイエンタールはフェリックスを抱え、エルフリーデの手首をつかんで人のいないほうへ引っ張っていった。

「ちよつと！！ どうしたのよオスカーッたら！！」

「うるさいっ！！ そんなに肌をさらして何のつもりだ！！ 恥を知れ！！」

「だって、店員がこれにあうって言うから……」

考えてみれば嫁はまだ18歳だ。フェリックスを預かって一人で買わせたのがまずかったのか？

「肩ヒモがないのはっ！！」

「だって母乳がやりやすいからと思っ〜」

なんて色気のない女だ！！ それに1歳すぎてまだ母乳飲んでんのかこいつっ！！ とっつとやめて俺に返せ。

ムカついていたのでロイエンタールはこれが「独占欲」である事に気づかなかった。

その日の夜。

遊び疲れて早々に眠ってしまったエルフリーデとフェリックスの

寝顔を見ながらロイエンタールはルーム・サービスのワインを飲んでる。彼は昼間の自分の行動を思い出してはイラついていた。

この場所のせいだ・・・そうに決まってる。

あいつは、素直でもないし、可愛気もないし、家事もできないし、怒ると手がつけれないし・・・

要するに可愛くない女だ！！なのに・・・

どうしてビーチで子供と遊んでいるときの笑顔や、カクテルを飲む口元や、日に焼けて少し赤くなつた項を見てこんな心が揺れるんだろう？

34にもなつて・・・まるで初めて恋人ができた高校生じゃないか！！

仮にも俺は漁色家といわれていた男だぞ・・・？ あいつより美形の女なんて、ごまんといた。なのにこんな心の揺れは全く感じたことがなかった。

今、同居してるのだって、一番の理由はフェリックスの存在であつて、それ以上は特にない。ただ、貴族としての教養と振る舞いは身につけているし、バカではないので邪魔にはならない。それにあいつのさばさばした性格が、俺にはちょうどいいのだ。あいつ自身も、あいつのいる空間も、居心地がよくて・・・

それだけだ。

ロイエンタールはグラスに残っていたワインを飲み干し、ふう、

とため息をついた。

そろそろ俺も寝ようとベッドに入る前に、エルフリーデとフェリックスの顔を見ると昼間の心の揺れとはまた違う感情がわいてくる。

それは「愛情」だと彼は気づき始めていたが、まだ自分にそういう感情があることを認めてはいなかったのだ。

スタンドの明かりを消そうとしたとき、フェリックスがふっと目を覚ました。

夕食を食べたあと、ほとんど気絶するみたいに寝てしまったので、状況が把握できないらしく、ぐずぐずと泣き出したので、抱き上げて背中をさする。

フェリックスはすぐに泣きやんで、甘えるように顔をこすりつけてくる。

.....お前と一緒に飲めるのはいつだろうな.....  
.....?

先刻飲んでいたワインが目に入って、ロイエンタールはそんな事を思う。

フェリックスは完全に目が覚めてしまったようだ。

「ムッターが起きてしまうぞ」

と、二人でバルコニーへ出た。綺麗な星空だった。きっと明日もいい天気だろう。

フェリックスは星に手を伸ばす……そして星をひとつ掴み取るしぐさをして

「あー」

と差し出した。

ロイエンタールは笑って掌を差し出し、それを受け取る。フェリックスは得意げな顔をした。

宇宙に輝く星が欲しかった事もあった。

けど、もういらない。

お前たちがいるから。

ENDE

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4120n/>

---

ロイエンタール家の夏休み

2010年10月9日06時09分発行